



生協しまねの『葉とらずりんご』

～生産者と組合員、生協しまねと一緒に

育て・つくる りんごづくり～



葉とらずりんごの園地にて

●りんごの外見(色づき)と味を良くするために、単に玉をまわして光が当たるようにするだけでなく、周囲を覆っている葉を輪ゴムで括り、太陽光が当たるように工夫をされていました。1本の樹に300個近くのりんごがなっているのを丁寧に地道な作業をされている姿にとっても感心し、頭の下がる思いでした。私たち消費者は見た目で判断してしまいがちですが、色目が悪くても品質、味に変わりはないということを理解すれば生産者さんの苦勞(玉まわし等)も少なくなるのかなとも感じました。【出雲支所・山本支所長】



輪ゴムで葉を括ってあるようす

●葉とらずりんごの生産者どうし、良き仲間であり品質の良い(おいしい)りんご作りのライバルでもあります。いろいろ話す中で、「ケンカしそうになる」と言われました。りんごが比較されると自分が一番おいしいりんごを作るんだ!という想いが強くなるそうです。生産者は本気でりんごづくりに取り組んでおられるのだなと改めて感じ、頭の下がる思いになりました。【組合員理事・吉田美智恵】

斉藤武雄組合長より

「1300Km離れていますが、全国の生協の中で一番生産者と組合員、役職員との距離が近いと感じるのが生協しまねさんです!」と言われました。「一番ありがたい」と感じたことは、平成20年6月、10月と二度の雹害が発生した際、生協しまねがいち早く協力して雹害りんごの企画に取り組んでくれたこと。私たち生産者の大きな助けとなりました。そのようなつながりが今の一緒に育て・つくる「葉とらずりんご」の取り組みの前身になっている。」と、感謝を伝えてくださいました。

10月1回葉とらずりんご予約企画では、たくさんのご予約をいただき、ありがとうございました。11月～2月の間、毎月1回葉とらずりんご通常企画のご案内をします。生産者・組合員・生協しまねと一緒に取り組んでいる 他では食べることのできない「葉とらずりんご」をぜひご利用ください。

産地を訪問してきました



10月20日～21日 理事3名・職員5名……産地訪問

土づくりのこだわり

秋(一般的には春)に肥料を入れます。魚カスを含むオーガニック肥料を秋に入れることで、冬に降り積もった雪が解ける際に肥料が土の下の方まで入り込んでくれます。春の雪解けの時に出来る新しい芽が強い芽になります。

現在(10/21)のようす

10月初めの台風の際には、りんごが落ちてしまう被害は少なかったものの、吹き返しの強風の影響でりんごがゆれ、枝に当たりキズに

なってしまうりんごもありました。キズがなければ、今年はとても良い状況でした。また、秋になると地域柄、北風の突風がいきなり吹くので油断はできません。

今は、他の品種のりんごの収穫などしながら、葉とらずりんごは、玉まわしの作業が続いています。昨年は、11/5～収穫作業が始まりましたが、今年も同じ頃になりそうです。樹になっているすべてのりんごが同じ時に熟れることはありませんので、熟れたものから順に収穫していきます。見た目ではなかなか分かりづらく、経験を活かしての判断となります。

11月5回企画

928 蔵	葉とらずりんご	929 葉とらずりんご	3kg箱
950g (3~4玉)	530 円 (税込価格 572円)	3kg (6~12玉)	1,560 円 (税込価格 1,684円)

詳しくは、商品カタログ「だいすき 11月5回」に掲載していますのでご覧ください。

りんごづくりは1年通して休みがありません。こだわって大切に育てられます。